

2027年2月期 第2四半期(中間期)決算 決算説明会資料

2026年10月14日

株式会社 アークス 代表取締役会長・CEO 横山 清



2027年2月期 第2四半期(中間期) 決算について

1. 2027年2月期 第2四半期(中間期)決算概要
2. 決算ブレイクダウン
3. 2027年2月期 通期予想
4. 株主還元方針および安定株主形成への取り組み

株式会社アークス
取締役副会長・CFO 古川 公一

1. 2027年2月期 第2四半期(中間期)決算概要

売上高は中間期として過去最高を更新も、売上総利益率が微減。販管費の対前年増加額をカバーできず、営業利益は減益となりました。

(億円)	1Q	前年差 前年比	2Q	前年差 前年比	中間期(累計)	前年差 前年比
売上高	1,584	+41 102.7%	1,602	+8 100.5%	3,186	+49 101.6%
売上総利益	393	+6 101.8%	399	+1 100.5%	792	+8 101.1%
売上総利益率	24.8%	▲0.2%	24.9%	±0.0%	24.9%	▲0.1%
販管費	352	+4 101.4%	362	+6 101.8%	714	+11 101.6%
売上高販管費率	22.2%	▲0.3%	22.6%	+0.3%	22.4%	±0.0%
営業利益	41	+2 105.9%	36	▲4 89.2%	77	▲2 97.3%
売上高営業利益率	2.6%	+0.1%	2.3%	▲0.3%	2.4%	▲0.1%
経常利益	44	+2 105.6%	40	▲4 89.4%	85	▲2 97.3%
売上高経常利益率	2.8%	+0.1%	2.5%	▲0.3%	2.7%	▲0.1%
中間純利益	28	+0 103.0%	24	▲4 85.5%	53	▲3 94.1%
売上高中間純利益率	1.8%	±0.0%	1.6%	▲0.2%	1.7%	▲0.1%

売上高：

6月は日曜日が前年▲1日であったことや、前年の備蓄米需要の反動、消費者の節約志向が一層高まったことから前年割れとなりました。一方で、特に青果での価格訴求力の強化と、水産惣菜の価格強化および付加価値を高めた商品の取り組み強化により、前年比101.6%と中間期として過去最高の売上高を更新しました。

売上総利益：

物価や資材価格高騰による仕入れ原価高騰に対して、カテゴリーマネジメントやオペレーション共有等の取り組みを中心に売上総利益高の強化を図ったものの、昨年猛暑の反動による季節商材の売上落ち込み、米の相場安などもあり、売上総利益率は対前年で▲0.1%となりました。一方で、売上総利益高は青果や水産、デリカでの営業施策が寄与し、前年から8億円の増加となりました。

販管費：

賃上げによる人件費の増加や第2四半期における新規出店経費などもあり、前年比で101.6%となりましたが、生産性向上の取り組みや節電、計画的な修繕による費用コントロールにより、予算内(予算比98.3%)での執行となりました。

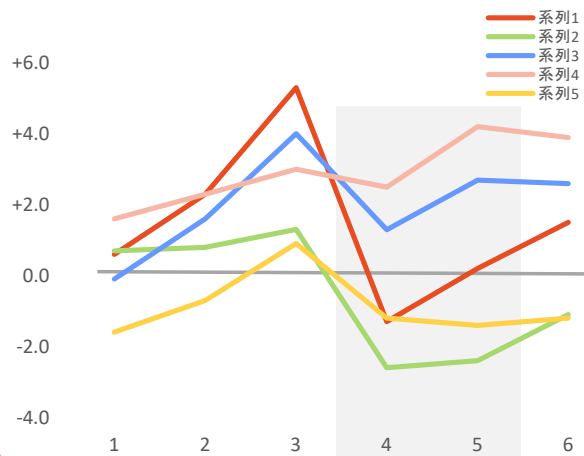
営業利益・経常利益・中間純利益：

以上の結果より、中間期の前年同期比は営業利益97.3%、経常利益97.3%、中間純利益94.1%にとどまりました。

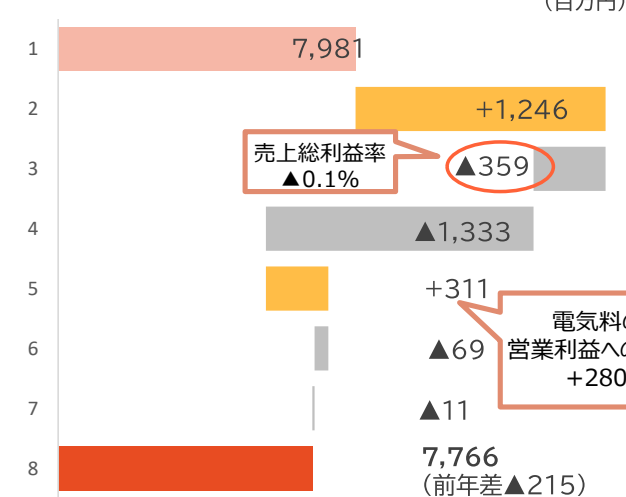
2. 決算ブレイクダウン

6、7月は昨年の備蓄米の反動や気温低下に加え、物価高により一点単価が一段と上昇し、買上点数が低下。節約志向が一層高まり、中間期の既存店客数前年比は▲0.6%と低下。

■ 既存店売上高 構造分析 (前年比%)



■ 営業利益増減要因 (前年比)



- ・既存店売上高前年比は6月に前年を割るも、生鮮強化をはじめとした営業施策により中間期は+1.4%。
- ・電気料: LED照明への交換や調光システムの導入、冷凍ケースのリーチイン化により電気使用量は前年同期比97.8%、電気料前年比94.5%。
- ・人件費: 賃上げや最低賃金の改定により前年比103.3%となったが、生産性向上に繋がる好事例のグループ横展開などにより対予算では99.3%に抑制。
- ・その他: 第2四半期における(株)伊藤チェーンの新規出店経費等もあり、販管費前年比は101.6%。

■ 売上動向と取り組み

米

前年の備蓄米の反動や相場安により売上は前年を下回る。8月は42か月ぶりに米の一品単価が前年割れ。

酒・飲料

前年猛暑による反動により需要が低下し、酒の中間期の売上前年比97.0%、飲料は同98.2%。

和洋日配

梅干しなどの漬物や、冷やし中華など涼味食品、アイスの売上が前年を大きく下回る。

好調部門の
磨き上げ

青果

旬の野菜を中心に値ごろ感のある価格での販売訴求やサラダなどの簡便・健康商品を拡充、また産直野菜などが好調に推移。

水産

相場が安定していたうなぎや、豊漁のかつお等の販促強化に加え、水産惣菜の商品力強化により大きく伸長。

デリカ

即食・ボリュームニーズに応える商品や、地場品を用いた地域密着型商品など、幅広い商品を積極的に新導入。

第2四半期は売上総利益率を前年並みに確保
下期は好調部門を更に強化

3. 2027年2月期通期予想

お客様の生活防衛意識が一層高まる中、グループ内の好事例を横展開しながら、通期計画達成に向け、取り組んでまいります。

(億円)	2026年度予想	前年差	中間実績①	前年差	下期計画②	前年差	中間実績+計画 ①+②	前年差
売上高	6,480	+210	3,186	+49	3,245	+112	6,431	+162
売上総利益	1,637	+58	792	+8	826	+31	1,618	+40
販管費	1,457	+55	714	+11	730	+31	1,444	+43
営業利益	180	+3	77	▲2	95	▲0	173	▲2
経常利益	196	+4	85	▲2	104	▲0	189	▲2
当期純利益	124	▲0	53	▲3	64	▲3	117	▲6

■ 下期取り組み

営業施策

- 旬の青果や水産など生鮮部門を中心とした味・鮮度・価格の**新納得価格**の磨き上げと横展開
⇒地域密着・お客様の支持率向上・客数増へ
- アークスでしか買えない付加価値商品の強化
- 年末商戦に向けた生鮮中心の営業強化
- お客様の利便性を高めた新プラットフォームでのオンラインショップ事業の拡大

経費コントロール

- 資材高騰に対してグループシナジーを活かした原価低減や削減事例のグループ各社への横展開
- 動画マニュアルの横展開導入による作業標準化
- 作業習得表の活用や、RPAを活用した労務管理による残業削減による生産性の向上
- これまで処分費用を要していた産廃を有価物化し、処理コスト削減と再資源化を推進

通期の店舗展開計画は…

新店 **3** 店舗 (中間期オープン済1店舗)

新納得価格をより多くのお客様へ！

スーパーアークスへの業態変更を含む

改装 **17** 店舗 (中間期改装済10店舗)

改装を通じてすでに強い店舗を
さらなるに飛躍へ！

4. 株主還元方針および安定株主形成への取り組み

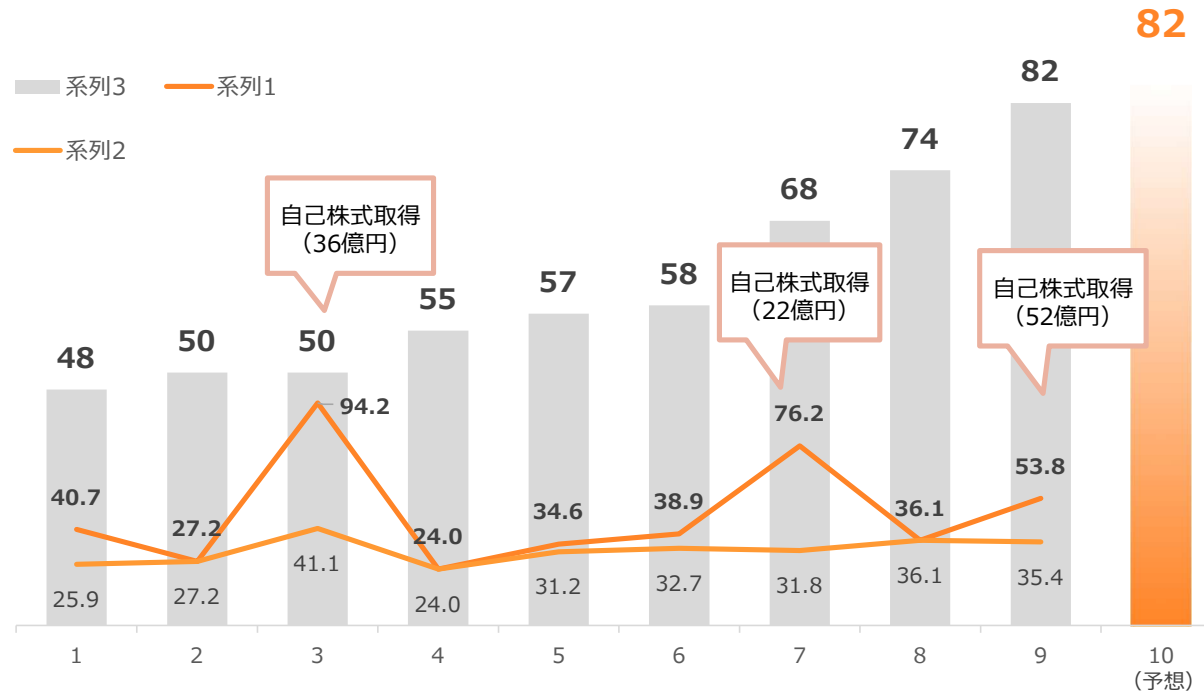
株主還元方針

配当性向

40% を目指します

配当金

2027年2月期 1株当たり 82円 予想



■ 中長期の安定株主形成に向けた取り組み

株主優待制度の見直し

安定株主の増強と中長期的な関係構築のため、2027年2月末日の基準日より、優待対象を1年以上継続保有の株主様に限定。今後も株主還元と持続的な企業価値向上に取り組んでまいります。

社員持株会の奨励金率引上げ

2025年12月より、社員持株会の奨励金率を10%⇒**20%へ引上げ**従業員資産形成の支援、従業員が当社グループの持続的な成長を共有できる制度として、推進してまいります。

「株主資本配当率(DOE)」を意識しながら長期安定的な累進配当を実施

アークスグループの 取り組み

1. 小売業を取り巻く環境の変化
2. 物価抑制策は八ヶ岳連峰経営
3. 売上高1兆円への展望

株式会社アークス
代表取締役会長・CEO 横山 清

1. 小売業を取り巻く環境の変化

物価高騰

記録的円安

原油高騰

食品消費税
減税

人手不足

異常気象

業界再編の
加速

グループ理念

アークスグループは、地域のライフラインとして
価値ある商品・サービスを低価格で提供し、豊かな暮らしに貢献します。

アークスグループ各社は
これまでも
「困難な状況」こそ
「成長のチャンス」に
してきた。



昭和元年(1926年)
人口約6,000万人

日本の
総人口

業界大手企業が北海道へ進出

昭和83年(2008年)
人口約1億2,800万人(ピーク)

人口は減少傾向へ

業界大手企業が
再編・撤退

新興勢力が
北海道・東北へ進出

第1次流通革命

第2次流通革新

インフレ

デフレ

インフレ

昭和元年
1926年

昭和10年
1935年

昭和20年
1945年

昭和30年
1955年

昭和40年
1965年

昭和50年
1975年

昭和60年
1985年

昭和70年
1995年

昭和80年
2005年

昭和90年
2015年

昭和100年
2025年

金利のある世界

2. 物価抑制策は八ヶ岳連峰経営

インフレ、物価上昇が続く中、アークスグループの総力を結集して、さらに大きく飛躍するため、明るく楽しく前むきに邁進する。

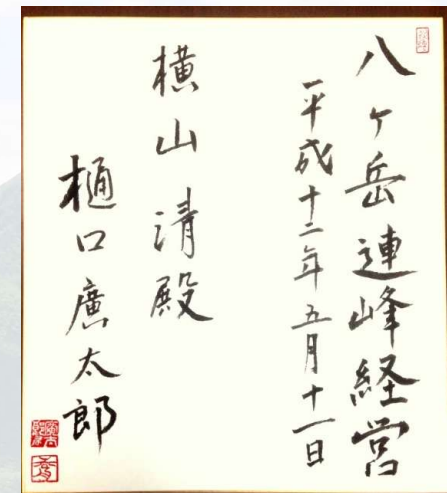
新インフレを凌ぎ
新参入とも共進
新納得価格で
明るく楽しく
前むきに邁進
令和八年元旦
会長 横山清

▲令和八年年頭所感



このような時代だからこそ、「味」・「鮮度」・「価格」の
バランスを重視し、生産者、お取引先、お客様
それぞれが納得できる

新納得価格を追求し続ける！



3. 売上高1兆円への展望

売上高1兆円に向けて
多様な施策で成長を図る

Try. One Trillion!

アークス設立30周年(2033年2月期)
売上高目標 1兆円以上

M&A (Mind & Agreement)



CGC



スーパー アークス化



スーパーアークスエクストラ



スーパーアークス花巻店

アークスグループ内の 好事例横展開 〈オペレーション共有化〉



カインズオリジナル商品を
67店舗で展開



株道東アークスでの展開例



株福岡での展開例

新日本スパマーケット同盟



地元産米の展開

ご清聴ありがとうございました



ARCS GROUP

